

① 今年度の取り組み状況 (H28. 夏 1回目実施)

☆保育者としての資質
 や能力・良識・適正☆
 繰り返し支援が必要
 な人への対応

実践したこと・・・

キャリアパスの有効活用のため、鎌倉女子大学教授佐藤先生にアドバイス
 いただき、新採用者にまずできるようになってほしい項目を2つスモールス
 テップを作成した。職員一人ひとりの次の目標を園長、主任とともに共通に
 し、支援の手立てとした。

☆保育者としての資質や
 能力・良識・適正☆
 周りへの感謝の気持ち、
 ねぎらいの気持ちを伝
 えることについて

実践したこと・・・

「ありがとう」の木を作り、職員室に掲示した。(①保護者に対して
 ②子どもたちに対して③職員に対して) 日々の生活の中で感謝の気持
 ちをふせんに書きだし、木に貼っていった。特に職員間では気持ちを
 書きだすことにより、同僚に支えられて日々の保育が行われているこ
 とをあらためて感じる事ができた。

☆保育者の専門性に関する
 研修・研究への意欲・態度
 ☆
 こどもの危機管理と園舎
 の構造との関係性につ
 いて

実践したこと・・・

園内、園庭でどのような事故が起こりやすいかを分析したところ、「こ
 どもたちが経験をすることで意識し防げる危険」と「保育者が手を加え、
 防がなければいけない危険」があることがわかった。また、園内や園庭を
 どんなふうに活用しているかを出し合った。すでに活用されている例がた
 くさんでた。しかし、園庭の環境が活かされていなくていいという気が
 付いた。そのため、園庭での自然をいかせるように日本自然保護協会認
 定自然観察指導員 青木きみ子氏を招き研修を行ったり、山砂、川砂を入
 れた。H29年度は学んだことを保育にとりいれていく。

② 今年度の取り組み状況 (H29. 冬 2回目実施)

夏の自己点検・自己評価を受け2回目は再び『保育者としての資質や能力・
 良識・適正』『保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度』の項目
 について自己点検・自己評価を行いました。
 その中で、保護者に対して「伝達事項を伝えることがうまくできない」と
 いうことが課題にあがりました。
 そのため、2月のグループディスカッションでは「保護者へ伝えなければ
 いけない伝達事項」をテーマに話し合うことにしました。



③ 来年度に向けて

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
 保護者への伝達事項の共通理解(3歳未満児)

・保護者への伝達事項を整理し、表にした。
 この表を基に、来年度の職員でも共通理解し、
 保護者との連携をはかっていく。

☆保育者としての資質や能力・良識・適正☆
 保護者への伝達事項について(3歳以上児)

・保護者への伝達事項をしっかりと伝えるために必
 要なことは、子どもの良い所・成長した所を保護者
 に日々繰り返し伝えていくことが大切だといふこ
 とを共通理解した。保育にいかしていく。

④ 学校評価委員の方からのご意見



・毎回、日々の検証をしっかりとされ
 ている。常に一つひとつ気付いた時に
 振り返って細かく対応すること、まと
 めて振り返ることのどちらも大切に
 している。その積み重ねが成果に繋が
 っている。継続して行って欲しい。
 ・今まで行事等の表面的な部分しか見
 えていなかったが、今回参加させて頂
 き、その裏側で多くの努力をして下さ
 っていることが見えた。子どもは園で
 たくさんの事を学ぶことができ成長
 していると感じる。

・「初雪が降った」「虹が出た」など保育
 が多少止まっても見る機会を作ってい
 る”という内容が自己点検内にあつた
 が、とても大切にしてほしいことだと思
 う。マニュアルにのせきれない、保育者
 としての感性も大切なのだと感じる。
 ・評価の積み重ねが大切。自己点検、自
 己評価、課題、改善策の流れの取り組み
 の積み重ねが子どもの姿に表れている。
 ・“保護者との連携” はとても大切なキ
 ーワードである。誰がどうしても家庭
 の役割を担うことはできない。子ども
 の成長の中で、家庭でなければならない
 役割を明確にして自覚をしっかりと持
 って頂くことを目標として欲しい。

・職員の同僚性を大切にしていることが伺
 える。職員が悩んだ時に一人ぼっちにさせ
 ないチームワークがとれた関係性ができ
 ている。
 ・指導者には『資質・能力・良識・適正』
 は欠かせない。その中でも特に良識が基本
 と思う。“やるべきことをやっているか”
 “やった方が良くと思う事をやっている
 か” “やらない方が良くと思う事をやっ
 ていないか” “やっちはいけないことをや
 っていないか”をどうやって子どもに教えて
 いくかが大切。
 ・環境教育、幼保小連携、特別支援、学校
 評価、第三者評価養成講座など求められる
 ことを着実に積み重ねている。

